【Current Views】

**がんの補完代替医療
ガイドブック**

—厚生労働省がん研究助成金研究の
一環として—

**Guidebook for Complementary
and Alternative Medicine in
Cancer Treatment**

— As part of Cancer Research in
Grants-in-Aid for Cancer from the
Ministry of Health Labour and
Welfare of Japan —

住 吉 義 光*

Yoshiteru SUMIYOSHI*

国立病院機構四国がんセンター病棟部長・泌尿器科

【要 旨】

癌患者やその家族は、癌の補完代替医療に関する正確で有用な情報を必要としていることが明らかとなり、そのためのガイドブックを作成した。“がんの補完代替医療ガイドブック”により、患者がこの療法をうまく利用できればと考える。また、厚生労働省がん研究助成金による“がんの代替療法研究”の概略を紹介した。

【キーワード】

癌, 補完代替医療, ガイドブック, 厚生労働省がん研究助成金研究

序 言

癌や成人病の罹患率の増加や健康志向の高まりなどにより、補完代替医療 (CAM) は急激に注目をあびるようになり、利用している人も著明に増加している。さらに、健康食品を中心とした市場規模も拡大し、CAM の経済効果は多大なものとなりつつある。そのため、一般の人に向けて発せられる CAM に関する情報は莫大な量である。新聞・雑誌・テレビやインターネットなどのメディアを通して、大量の情報が流布している。しかしながら、医学的・科学的観点から、正確で有用な情報を伝えているものは極めて少ない。さらにその中には、エビデンスの怪しいものや法律に違反するようなものが存在するのも事実である。そのため、重大な健康障害を被り、死に至ったような事例も報告されている。一般の人がどの情報を受け入れ、どの情報を除外すればいいのか、ハウ・ツー書の作成が急務と思われる。このような背景より、まず癌患者とその家族らを対象とした“がんの補完代替医療ガイドブック”を作成した。このガイドブックに目を通すことにより、CAM をうまく利用できる第一歩になればと考える。

厚生労働省がん研究助成金研究

癌患者の 30-40% が何らかの CAM を利用しているとされる。前述のように、癌の CAM に対する情報を得ることは比較的簡単である。しかしながら、利用している患者が最も必要としている情報、すなわち症状の緩和や有効率、予防・延命効果・副作用についてのものは少なく、科学的に検証されたものは皆無である。一方、医療者は、西洋医学的手法により科学的に証明されたエビデンスに基づく治療を基本としている。現況では、CAM に関する臨床的に有用なエビデンスは非常に少ない。また、患者より CAM に関し説明を求められた場合に参照可能な情報は少なく、適切な回答ができない事も多い。このことで、医療者と患者との信頼関係を損なう場合も少なくないと思われる。このような背景より、癌に関する公的研究費（厚生労働省がん研究助成金）を用いて、癌の CAM に関する研究が開始されることとなった。

この助成金は、がん対策に関する企画および行政を推進し、並びにがん医療の向上に資するため、厚生労働大臣が必要と認める研究に対して交付するものであり、昭和 38 年度から施行されている。その業務は、国立がんセ

ンター総長に委任されており、国立がんセンター総長は関係行政機関及び国立がんセンター職員並びに学識経験者から成る「がん研究助成金運営委員会」を設置して、がん研究助成金の交付の対象となる研究予定課題の選考、研究費予定額の作成等について審議するとともに、毎年、研究実績の評価を行っている。各研究の研究者は全国の国立、公立、私立の医療機関に広く分布し、その研究は、各分野において着実に成果を取っており、がんの予防、診断、治療に大きく貢献している。—国立がんセンターホームページより—

平成 13–16 年度は兵頭（現筑波大学教授）を班長とし、研究課題“我が国におけるがんの代替療法に関する研究”で、この助成金による研究が行われた。平成 17 年度より著者を班長とし、研究課題“がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究”で、研究が開始された。

兵頭班の研究業績（平成 13–16 年度厚生労働省がん助成金研究業績集より）

わが国におけるがんの CAM の実情を把握し、がん医療における位置づけを行い、現時点での標準的な考え方を広く国民に示すとの目標で研究が行われた。その業績の要旨を下記に示す。

1. がんの代替療法に関する患者アンケート調査

全国がん（成人病）センター協議会加盟 16 施設と全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会加盟 40 施設の入院および外来患者を対象にアンケート調査を行った。アンケート配布総数は 6607、回答率は 56.4%で、そのうち癌患者の有効回答は 3095 であった。平均年齢 60 歳、男女比 48:52 であった。アンケート内容は、癌の CAM に関する 31 の質問と栗原班 QOL 調査、HAD (Hospital Anxiety and Depression) であった。

CAM 利用率は、44.6%であった。内容は、健康食品 89%、漢方 7.1%、気功 3.8%、灸 3.7%などであった。利用頻度の高い健康食品は、アガリクス 61%、プロポリス 29%、以下 AHCC、メシマコブ、キチンなどであった。CAM 利用者の背景の検討結果により、ホスピス・緩和ケア受診者、癌の診断後人生観が変わった患者、60 歳以下、症状を有する患者、女性が有意に CAM を利用していた。

CAM を知ったきっかけは、家族や友人からの薦めが最も多く 78%、自分で調べたが 23%であった。CAM を利用する理由は、癌の進行抑制・改善を期待が 67%、治癒を期待が 45%、症状の軽減が 27%であった。CAM が実際に効果ありと考えているのが 24%、効果なしが 6%、わからないが 68%であった。副作用は、ありが 5%、な

しが 56%、わからないが 29%であった。CAM 利用について、80%が医療従事者からの質問はなく、患者自身も 58%は相談しなかったと回答している。

2. がんの代替療法に関するデータベース作成

医療者が患者から CAM について相談を受けた場合、その情報がほとんどなく相談に応じることができないのが現状である。そこで、医療者が CAM に関する情報を入手できるようにデータベースを作成した。方法は、文献データベースソフトである GetARef と文献検索に PubMed と医学中央雑誌を用いて施行した。まず、健康食品であるアガリクス、プロポリス、AHCC、メシマコブ、キチン・キトサン、霊芝、マイタケについて検索した。アガリクスでは、基礎研究が圧倒的に多く、臨床試験では症例報告が 5 件、ケースシリーズが 1 件であり、質の高い臨床試験はほとんど行われていなかった。プロポリスは、多くの文献情報があり、臨床試験も多く二重盲検も 3 件に認められた。AHCC でも基礎研究が多く、臨床研究はオープン試験が 7 件、二重盲検が 1 件であった。キチン・キトサンは、体系的評価がなされた二重盲検試験が 3 件あり、最も臨床試験が進んだ健康食品であった。霊芝、マイタケも同様に基礎的研究はあるが、臨床研究はほとんど認められず、症例報告やケースシリーズが 2–3 件あるだけであった。

3. がんの代替療法に関する指針（ガイドライン）の作成

誰に向けたガイドラインか？癌医療に携わる医療者と癌患者およびその家族などが考えられるが、とりあえずは医療者向けのガイドライン作成を目指した。誰が作成するのか？この研究班員および協力者と緩和医療学会ガイドライン作成委員会とが協力して行う。患者や利害関係者の参加は見合わせた。作成項目は、本邦での CAM の実態で健康食品の利用率が高いことを考慮し、健康食品のガイドラインを作成することを優先した。現在の進捗状況は、Research Question およびエビデンス検索と評価法が決定した段階である。

4. その他

がんの代替療法の評価法の作成、薬剤師とがんに対する健康食品（薬剤師が行うべき健康食品に対する有用な情報提供）、医療情報、代替療法を求める精神的要因の研究などであった。

兵頭班研究で判明した課題

癌患者の CAM 利用率は 44.6%と高率であるにもかかわらず

わらず、医師・薬剤師などの医療者のみならず患者やその家族が参考になるような情報が非常に乏しい。さらに、CAM を利用している患者はそのことを担当医に相談することなく、患者が自己判断のもとに行っていた。これらのことより、序言でも述べたように、患者が自己判断を下せる根拠のある情報やその情報の解釈の仕方を示したツールが必要であることが理解できる。医療者に対するガイドラインは現在作成中であるが、患者やその家族および広く一般の人向けのものは予定されていない。しかし、患者やその家族に対する CAM のガイドライン作成も急務であると思われる。

CAM の情報のうち最も利用価値が高いのは臨床研究に関するものと思われる。しかしながら、CAM での臨床研究は非常に少なく、本邦では健康食品に関するものが数件みられるのみである。さらに、西洋医学的手法を用いた科学的検証が行われた臨床研究は皆無である。医学的に質の高い臨床研究を計画し、早急に実施すべきと思われる。

住吉班の研究目的と計画

癌の CAM に関し科学的検証を行い、患者のみならず医療者に有用な情報を提供することを目的とした。平成 17 年度の研究計画は、1) 癌医療に携わる医療関係者に対する CAM のガイドラインの作成、2) 健康食品などを利用した臨床試験の実施、3) 抗癌剤や放射線療法と健康食品・ビタミン剤などとの相互作用、4) 健康食品以外の CAM、例えばアロマセラピーによる不安軽減効果の有効性を西洋医学的アプローチで解明する、とした。1) は兵

頭班から引き続き行い、完成をめざすものである。また、患者やその家族・一般の人向けのガイドブック作成も予定した。2)–4) は CAM の臨床応用であり、前向き臨床研究としてプロトコールの作成と実施を予定している。

“がんの補完代替医療ガイドブック”

前述の助成金研究の一環として、班員である大野（大阪大学）を中心に癌患者とその家族らのためのガイドブックが作成された。癌患者がうまく CAM を利用するためのものである。

このガイドブックは二部構成となっている。すなわち、活用編と資料編であり、前者は CAM に興味をいだいた際に目を通して欲しい。さらに、詳細な情報が必要とするならば資料編を読んでもらうように構成されている。必要と思われる箇所には、情報の根源となった文献やウェブサイトを紹介している。ガイドブック巻末には、このガイドブックへの意見を集約できるように連絡先を記載する。（ただし、住吉、大野ともに 2006 年 4 月から連絡先が変わるため、本学会誌付録のガイドブックの見本には、連絡先は未掲載となっている）

この学会誌読者には、癌診療に携わっており、癌患者に CAM を指導している方が多いと思われる。是非、このガイドブックを検証して頂きたい。そして、忌憚のない意見を遠慮なさらずにお寄せください。このガイドブックは、決して完成しているものではなく、この学会誌読者の意見や癌患者などの意見を十分に反映し、改訂する予定である。

ABSTRACT

Guidebook for Complementary and Alternative Medicine in Cancer Treatment

— As part of Cancer Research in Grants-in-Aid for Cancer from the Ministry of Health Labour and Welfare of Japan —

Yoshiteru SUMIYOSHI

Chief of Inpatients Division and Department of Urology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center

The cancer patients and their families needed accurate, useful information on the complementary and alternative medicine of cancer. Therefore, the guidebook for the complementary and alternative medicine in cancer treatment was made for them and it is thought that they can use the complementary and alternative treatments well by this guidebook. Moreover, it introduced the outline of the cancer research of the complementary and alternative medicine by Grants-in-Aid for Cancer from the Ministry of Health Labour and Welfare of Japan.

Key words: cancer, complementary and alternative medicine, guidebook, Grants-in-Aid for Cancer from the Ministry of Health Labour and Welfare of Japan